

1 学校教育目標

- 教育目標……
- 1 広い教養と専門的な知識技術を身に付け、望ましい勤労観・職業観を養う。
 - 2 感謝の気持ちを持ち、地域や社会に貢献する心と態度を養う。
 - 3 自ら思考し、判断し、責任ある行動のとれる主体的能力、態度を養う。
 - 4 強い使命感と倫理観を持ち、創造性豊かで挑戦し続ける産業人の育成を図る。

- 育てたい力と心……社会人として自発的・自律的に行動できる。
- 1 基礎学力を含めた広い教養と専門的な知識技術
 - 2 高い規範意識と判断力
 - 3 感謝の気持ちとボランティア精神
 - 4 現状に満足せず主体的に学び続ける姿勢



校訓

勤労愛好 報恩感謝 自発自律

ひとづくり&ものづくり 100年へ向けて

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

- 基礎学力テストについては、実施前後での指導内容・方法を検討し、就職試験に対応した効果的な基礎学力の定着を目指す。
- 授業アンケートについては、生徒のニーズを把握し、より学習意欲が向上する授業となるよう授業の工夫・改善に取り組む。
- Webページについては、コンテンツの掲載方法を検討し、より新鮮な情報を早く提供できるように改善を進める。
- 通学路の危険箇所の確認や交通ルールを守る規範意識の向上を図るとともに、自転車乗車中のルール順守とマナーの指導等を通して、交通事故対策に努める。
- 生徒の規範意識をさらに高めるよう、全教員が共通理解のもと、引き続き粘り強く取り組む。
- いじめ防止については「山口県立小野田工業高等学校いじめ防止基本方針」に基づいて、引き続き全教員が未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。
- 生徒の健康意識は高まりつつあるが、さらに高い目標を設定し、自己管理能力を向上させる。特に歯の健康の重要性を理解させ、治療率の向上を目指す。
- PTAや地域との連携を推進し、生徒の進路意識・学習意識の向上により、一次募集での合格につながるよう、きめ細かに個別指導を徹底する。指導内容を充実させ、今年度も進路決定率100%を目指す。
- 資格試験については、学科間の連携を取り、ジュニアマイスターポイント1800点以上を目指す。指導については、担当者と担任が連携を取りながら、補習等を行い合格率の向上を目指す。
- 体験入学については、本校への志願者を増やすために、体験入学の充実や出前授業、外部と連携した学校のPR活動に積極的に取り組む。
- 引き続き、委員会や職員会議、校務分掌活動の円滑な運営や業務時間の適正化に取り組む。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題及びチャレンジ目標

- 1 ICT機器の効果的利用等による、わかりやすい授業の実践
- 2 規律ある安心・安全な学校づくりと組織的な危機管理
- 3 キャリア教育の充実と丁寧な進路指導
- 4 学校行事や様々な媒体を利用した本校の魅力の積極的発信

- (1)【学習指導】
- ・基礎学力や技術の定着
 - ・互見授業、研究授業、授業評価を活用した授業研究とICT機器の積極的活用による授業改善
 - ・主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業実践
- (2)【生徒指導等】
- ・基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上
 - ・命の大切さや人権を尊重する心や態度の育成
 - ・交通事故0の継続
 - ・部活動や特別活動の活性化
- (3)【進路指導】
- ・資格取得の促進
 - ・早い時期からの進路意識の醸成
 - ・就職サポーター等と連携した積極的な情報収集
 - ・生徒・保護者への確実な情報提供
 - ・最後まで粘り強いサポートの実践
- (4)【校務分掌・その他】
- ・教員減に対応した勤務体制の見直し
 - ・迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化
 - ・コミュニティスクール等地域、企業、異校種などとの双方向の連携強化
 - ・本校の特徴的な活動やものづくりの魅力の積極的情報発信

本年度のチャレンジ目標

①進路実現100%

②ジュニアマイスター全校生徒の獲得得点

1800点以上

4 自己評価

重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	
教務	基礎学力の定着向上及び学習意欲の育成と学校・家庭・地域との連携強化	・「基礎学力テスト(漢字・数学・英単語)」の計画的な実施と内容の充実及び基礎学力の定着を図る。 ・授業評価アンケートの内容を精選し、年1回の実施とその結果から生徒の実態を把握し、生徒に即した授業を行うとともに、授業改善に繋げる。	4: 計画どおり3回実施し、全体を通した成績優秀者(平均80点以上)の割合が60%以上であった。(欠席者は除く) 3: 計画どおり3回実施し、全体を通した成績優秀者(平均80点以上)の割合が50%以上60%未満であった。(欠席者は除く) 2: 計画どおり3回実施し、全体を通した成績優秀者(平均80点以上)の割合が40%以上50%未満であった。(欠席者は除く) 1: 計画どおり3回実施し、全体を通した成績優秀者(平均80点以上)の割合が40%未満であった。(欠席者は除く)	1 予定通り3回実施し、全体の受験者数が282名に対し、総合平均が80点以上の者が94人と32.7%の生徒が評価基準を上回った。 各3回のテスト合計点が学年の上位10位以内の生徒が10人以上を超える学年・科目もあり、基礎学力の指導に一定以上の成果が見られたが、英語に関しては今一歩努力が必要と思われる結果であった。	
		4: 年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行えているが95%以上である。 3: 年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行えているが85%以上である。 2: 年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行えているが75%以上である。 1: 年1回の実施と、その結果から生徒の実態に即した授業を行えているが75%未満である。	4	全校での「先生の分かりやすい授業」について達成度98.0%である。座学教科についても、普通科・工業科における8割以上の教科が95%以上と高い達成度であること、「分かりやすい授業の工夫」への到達度が全校で96.64%であることから教員が分かりやすい授業に努めていることを生徒が評価している。次に「生徒が興味を持つ」について、全校で到達度96.8%であり、特に工業科(実習)が99.6%と非常に高く、概ね生徒は授業に対し興味・関心を持っていると言える。	
		・授業等で学校図書館の積極的な活用を図り、読書活動の推進につなげる。	4: 年間平均で、週4コマ以上の利用があった。 3: 年間平均で、週3コマ以上の利用があった。 2: 年間平均で、週2コマ以上の利用があった。 1: 年間平均で、週1コマ程度の利用にとどまった。	2	国語科だけでなく、工業科の授業でも利用があるが、頻繁な利用とならなかった。1クラス全員の同時利用は座席間隔も考えると密度が高くなってしまいうので、コロナ禍においては厳しい一面もある。今後、少人数授業の科目を中心に利用が伸びるよう、学校図書館内の環境整備も検討していきたい。 図書委員の活動として毎年行っている山陽小野田市立中央図書館での「小工生のおすすめ本」展示を行っている。この展示を行うために全校に行うアンケート調査では各クラスの生徒から様々なジャンルの本が紹介されることもあり、読書や学校図書館に対する関心のある生徒はそれなりにいるようである。
		・Webページによる積極的な情報発信を推進し、多くの人に本校の情報を提供する。	4: 昨年度より、閲覧件数が10%以上増加した。 3: 昨年度より、閲覧件数が5%以上増加した。 2: 昨年度と同程度の閲覧件数にとどまった。 1: 昨年度より、閲覧件数が減少した。	4	直近1ヶ月の閲覧件数は昨年度の約2倍となっている。本校に関心のある方だけでなく、本校関係者が閲覧することもあるので一概には言えないが、本校のWebページに対する関心が高まっていることがうかがえる。今後、デザインや掲載内容の見直しに取り組み、よりよいページづくりを進めていきたい。

5 学校運営協議会委員評価

学校運営協議会委員からの意見・要望等	評価
・授業評価アンケートからも授業の工夫が伺える。 ・基礎学力の定着に課題が見られる。新たな手段の検討が必要である。 ・読書活動の推進をさらにすすめる。 ・WEBページの周知度が上がっていることは評価できる。	3

生徒	自分の健康と命の大切さを認識させるとともに、社会の一員であるという規範意識を醸成させる。また、問題行動の早期発見・未然防止に取り組む。	・交通安全教室の充実や学年別、全体指導での交通安全意識の向上や醸成を図り、自分の命や他人の命を守る意識を育む。また、定期的な立哨指導や生徒会の取り組みも行い交通事故をなくす。	4:年間を通して事故件数が5件未満であった。(全校生徒の1.8%) 3:年間を通して事故件数が10件以内であった。(全校生徒の3.5%) 2:年間を通して事故件数が15件以内であった。(全校生徒の5.2%) 1:年間を通して事故件数が20件以上であった。(全校生徒の7%)	3	事故件数は6件。骨折事案が1件あったが、その他は軽傷と自転車損壊であった。登下校の交通マナーは良く守っていて、生徒側に原因のある事故は発生していない。今後は、更に注意喚起をして「自分の命、他人の命を守る」を徹底して事故0を目指す。	・事故6件は残念であるが、日頃の交通マナーは良い。	4
		・頭髪服装検査をとおして規範意識の醸成を図り、礼儀やマナーの指導を行う。	4:初回の頭髪服装検査の合格率が90%以上だった。 3:初回の頭髪服装検査の合格率が80%以上だった。 2:初回の頭髪服装検査の合格率が70%以上だった。 1:初回の頭髪服装検査の合格率が70%以下だった。	4	生徒の自覚が定着して、日頃から指導を受ける生徒はほとんどいない。今後も生徒が自覚し、自らを正すことのできる生徒を一人でも多く育成していきたい。	・学校が落ち着いていることがうかがえる。継続した指導を期待する。	
		・全生徒に対しアンケート調査を実施し、生徒の把握に努めると共にいじめの早期発見、対応を図る。	4:年3回の実施ができ、いじめの再発防止に結び付いた。 3:年3回の実施ができ、いじめ対策(指導)に結び付いた。 2:年3回の実施をしたが、いじめ対策(指導)に結び付かなかった。 1:年2回以内の実施に止まった。	4	年間を通して、いじめと確認できる事案は確認できなかった。教育相談や、生徒と教員との意思疎通も比較的うまく機能している状態である。	・今後もいじめゼロを目指して生徒に寄り添いことを期待する。 ・歯科治療率が上がる取組が素晴らしい。	
		・健康診断の事後指導を通して、健康に対する意識と自己管理能力の向上を図る。特に、歯科の治療率の向上を図る。	4:事後指導を実施し治療率が40%を超えた。 3:事後指導を実施し治療率が30%~40%未満だった。 2:事後指導を実施し治療率が10%~20%未満だった。 1:事後指導を実施したが治療率が10%以下だった。	4	63.1%の完了率だった。今年度は、個別指導や複数回にわたる全体指導を徹底したので、昨年より大幅に治療率が上がった。今後も指導を徹底し100%を目指す。		
進路指導	学校、家庭、地域間の緊密な連携をベースにしたキャリア教育の活性化と個々の進路希望の実現	・進路希望調査や個人面談等の充実により、学校全体で生徒の進路希望を支援し、その実現を図る。	4:生徒の95%以上が一次募集試験で進路を決定した。 3:生徒の90%以上が一次募集試験で進路を決定した。 2:生徒の85%以上が一次募集試験で進路を決定した。 1:生徒の85%未満しか一次募集試験で進路を決定できなかった。	3	2年次より、企業説明会及び進路指導部による面談や個人指導を行い、進路希望調査をもとに受験先を決定した。8月以降、PTA・就職サポーター・教員による面接練習など受験指導を繰り返し行った結果、一次募集試験の合格率は93%(昨年度97%)だった。進学を含め1回目の受験で不合格だった者は、二次募集試験や専門学校等の試験にチャレンジし、1月末に全員進路決定をした。	・生徒の進路実現が達成できている。	3
		・生徒の進路希望に資する企業訪問の実施と就職サポーターとの綿密な情報交換を推進することで、学校のニーズに即した求人数の確保と求人内容の充実をめざす。	4:360人以上の求人を確保することができた。 3:270人以上の求人を確保することができた。 2:180人以上の求人を確保することができた。 1:180人未満の求人しか確保することができなかった。	4	新型コロナの影響により電話でのやり取りを中心に6月より企業面談を開始した。校長をはじめ、教頭・各工業科長・3学年担任・進路指導部及び就職サポーターが企業や進学先と面談し、卒業生の定着指導と求人依頼を行った。結果的に605名分(前年599名分)の求人を確保することができた。昨年度とほぼ同数で、恵まれた状況であった。景気の変化に備えて、来年度以降も引き続き企業へ働き掛けを行いたい。	・求人確保に努力していることがわかる。今後ともお願いする。 ・コロナ禍で仕方ないところもある。	
		・進路オリエンテーションや進路講演会、進路説明会など、進路に関する行事を実施し、生徒・保護者への確実な情報提供をめざす。	4:アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が90%以上であった。 3:アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が80%以上であった。 2:アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が70%以上であった。 1:アンケートで「参考になる」「とても参考になる」が70%未満であった。	1	新型コロナの影響によりPTA行事の多くが中止になった。3年生対象のPTA面接練習会は実施できた。来年度は感染に注意しながらPTA関連行事の充実を図り、PTA活動を盛り上げたい。		
工業	資格取得に向けた指導の充実 近隣の中学校に対する教育活動の周知	・各科において資格取得に向けて積極的に働き掛け、ジュニアマイスターポイント年間1800点を目指す。(令和元年度実績1754点)	4:ジュニアマイスターポイント1800点を達成した。 3:ジュニアマイスターポイント1600点以上であった。 2:ジュニアマイスターポイント1400点以上であった。 1:ジュニアマイスターポイント1400点未満であった。	1	新型コロナウイルスが蔓延している状況下にあるが、資格試験や技能検定等は例年通りに実施された。しかし、例年よりも合格率の低い資格試験もあり、また、全校生徒数の減少もありポイントの取得は厳しい状況にあった。各科とも、科の特色に応じて資格の指導を行い、3月終わりまでに1500点程度の獲得が見込まれる。今後も生徒の資格取得の支援をしていきたい。	・積極的な資格取得を期待する。専門知識の習得に向けて一層の取組をお願いする。	2
		・親子科学教室、体験入学、かがく博覧会、ものづくりフェア、出前文化祭、小工祭等において工業の魅力を中学生や近隣の方に伝える。	4:7回以上の行事に出場し、本校をPRした。 3:6回の行事に出場し、本校をPRした。 2:5回の行事に出場し、本校をPRした。 1:本校をPRした行事への出場が、4回以下であった。	1	今年度、新型コロナウイルスの影響で親子科学教室やかがく博覧会の中止になった。体験入学は参加者の減少はあったが、多くの中学生が参加した。校外に出て活動を行うことが難しくなったが、小学校への出前授業の実施や中学校への学校紹介リーフレットの配布など感染状況が落ち着いてきた間には活動ができた。来年度は、地域の状況にあわせて近隣の方へ本校のPRを行いたい。	・科学教室の開催等、来年度に期待する。	
業務改善	学校の組織等 校務のICT化の推進 日常的な業務 各種会議・委員会の効率化 勤務状況 勤務の適正な管理	・情報の一元化等職員間の情報共有、情報発信にネットワークパソコン利用によるICT化を推進する。	4:校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築と活用を推進することができた。 3:校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築はできたが活用が不十分だった。 2:校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築、活用ともに不十分だった。 1:校務のICT化及び職員間の情報共有、情報発信の新たなシステムの構築も活用もできなかった。	3	昨年度に引き続き、GIGAスクール構想および新型コロナウイルス感染症対策により、ICT化が進んだ。校外および校内で研修会が開催され、多くの教員が参加した。また、生徒、保護者アンケートも新たにWEBアンケートを導入した。来年度は、校務支援システムが導入され、情報の一元化が促進される。ICTの活用方法を、個人だけでなく、組織の力として教員間で情報を共有する必要がある。	・WEBアンケートの導入は評価できる。	4
		・議題の精選及び情報の共有や会議進め方を改善し、会議の効率化をさらに進める。	4:会議時間が1時間程度以内に終了した会議の割合が9割以上 3:会議時間が1時間程度以内に終了した会議の割合が6割以上 2:会議時間が1時間程度以内に終了した会議の割合が3割以上 1:会議時間が1時間程度以内に終了した会議の割合が3割未満	4	議題の精選や日常の情報交換により、各種会議を予定時間内に終わることができた。新型コロナウイルス感染症への対応においても、各主任を中心とした情報共有と連携により、素早い対応を行うことができた。教育活動が大きく妨げられることはなかった。今後は、ICT化をさらに進め、業務のスリム化を目指す。	・業務改善が進んでいる。 ・ライフワークバランスを大切にしてほしい。	
		教員の時間外在校等時間の平均を45時間以下とする。	4:令和3年度の時間外在校等時間の平均が45時間以下 3:令和3年度の時間外在校等時間が50時間以下 2:令和3年度の時間外在校等時間が55時間以下 1:令和3年度の時間外在校等時間が55時間超	4	12月末現在、時間外在校等時間の平均は38.7時間である。しかし、一方で80時間を超えた人数は月平均4.8人で、その主な理由は部活動の指導のためである。全職員の時間外勤務が減少するよう業務の適正化をさらに進める必要がある。		
地域連携	近隣の小中学生に対する教育活動の周知 学校と家庭、地域社会や地域の大学との連携強化に努める。	親子科学教室、中学生の勉強会や出前授業において、工業の魅力を小中学生や近隣の方に伝える。	4:4回以上の行事に参加した。 3:3回の行事に参加した。 2:2回の行事に参加した。 1:1回の行事に参加した。	1	小野田小学校への出前授業を1回実施した。その他、予定されていた地域行事、出前授業が新型コロナウイルス感染症の影響で中止され実施には至らなかった。一方、対面行事ではないが、在校生の学校生活の様子を伝えるリーフレットを作成し、中学校17校に配布した。小学生向けのものづくり教室の動画を作成し、YouTubeで配信した。	・コロナ禍で可能なことにチャレンジしていることが評価できる。	3
		地域の伝統産業を理解し、工場見学やインターンシップにより、地域と連携した学習に取り組む。また、地域の大学と連携し、高度な知識に触れる取り組みをする。	4:地域と連携した行事に4回以上参加した。 3:地域と連携した行事に3回参加した。 2:地域と連携した行事に2回参加した。 1:地域と連携した行事に1回参加した。	4	例年実施しているインターンシップや工場見学は、新型コロナウイルス感染症の感染状況に合わせ、リモート実施も導入して行った。地元企業との地域の合同清掃作業も実施した。本校生徒が作製した消毒液スタンドを公民館や中学校に配布することができた。生徒は大学やマイスターによる高度な技術指導を受けた。	・今後も地域貢献に一層取り組むことを期待する。	

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【教務】わかりやすい授業の実施は98%達成することができたが、その一方で基礎学力テストの成績優秀者数は目標を達成できなかった。次年度に向けて改善が必要である。【生徒】頭髪服装検査の合格率は高く維持できている。教育相談、生徒指導が機能できていると考える。【進路指導】今年度も十分な求人数を確保し、卒業生全員の進路先を決定することができた。進路に関する情報提供が不十分である。【工業】資格取得率は目標を大きく下回った。新型コロナウイルス感染症の影響により、予定よりも地域活動が実施できなかった。【業務改善】少しずつではあるがICT化を進めている。【地域連携】新型コロナウイルス感染症の影響により、予定通り実施できない行事が多くあった。

7 次年度への改善策

【教務】ホームページのデザインや掲載内容の見直しに取り組み、よりよいページづくりを進める。基礎学力の定着を目指し、既存のテストについて改善を行う。【生徒】来年度も事故ゼロを目指す。生徒指導では、生徒が自覚し、自らを正すことのできる生徒を一人でも多く育成する。【進路指導】コロナ禍で可能な範囲でPTA活動を実施する。進路情報の提供を充実させる。【工業】感染対策を行い、行事等を再開する。資格取得に向けて、生徒支援を行う。【業務改善】ICT化をすすめ、業務の効率化を図る。またICTの活用に関して、研修を積極的に行う。